

ソレハ、イツモユルヤカニ浸食シ
壊シテイク。



After the lunar eclipse
月食のあと
リ・クリエイション

Motoko Hirayama Solo Performance
平山素子ソロプロジェクト

本日は、平山素子ソロプロジェクト『After the lunar eclipse / 月食のあと』リ・クリエーションにお越しいただきましてありがとうございます。

今回の大震災で被災された関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。この戦後最大の危機に際して、芸術文化は多くの方々に生きる力を与えることができると信じ、今後益々重要になっていくであろう、人々が集まり、心を癒し、活力を得ることができるような、公立文化施設の役割を果たしていきたいと考えております。

本作品は、愛知芸術文化センタープロデュース作品として、2009年12月に愛知県芸術劇場小ホールにて初演されました。1999年以来、愛知県出身の平山素子氏には当センターの様々な舞台に参加いただいて参りましたが、初の本格ソロ公演となった本作品は、初演から1年半の時を経て、再振付を行うことによってさらに完成度を高め、全国3箇所で開催されます。この度の愛知公演は、東京、兵庫と国内ツアーを経た凱旋公演です。

元来、^{まつ}祀りを起源とした舞踊は、自然の営みに寄添いながら、常に私たちと共にあり、その体現者である舞踊家は生死を繋ぐ巫女的な存在でありました。本作品は、3.11の東日本大震災以前に創作された作品ではありますが、今まさしく舞踊及び舞台芸術の存在価値を今日に問い直す作品となりました。

振付家であり、かつ選ばれしダンサーである平山素子氏、継続して宇宙と光をテーマに創造活動を行ってきた逢坂卓郎氏。平山氏の身体と融合し、あるときは拮抗する逢坂氏の「宇宙線シリーズ」は、阪神大震災を契機に、宇宙誕生時のエネルギーを最先端の技術により可視化した、時空間を超えて古今を繋ぐインスタレーション作品です。

原発事故により今後の電力との関わり方にも再考することを迫られた私たち現代人にとって、本作品のテーマである「光と闇」は、時節を得たテーマにも感じられます。24時間光が溢れ、真の闇に会う時間は劇場だけになってしまったかと思われる現在、本来の自然のリズムを見つめなおし、光の変化に伴い刻々と変化を遂げるダンサーの身体を通じて、誰もがただひとつだけ携える身体の重さと、そこから迸る生命のエネルギーを感じていただくことができましたら幸いです。

最後になりましたが、今回の公演開催のためにご協力・ご尽力賜りました多数の方々から厚くお礼を申し上げます。

愛知芸術文化センター

構成・振付・ダンス=平山素子

ライトアート=逢坂卓郎

衣裳 =スズキタカユキ

衣裳アシスタント=高橋愛

音楽=落合敏行

ヘア&メイク=上田美江子 [SHISEIDO]

照明=森規幸 [balance,inc.DESIGN]

照明オペレーター=稲崎愛歩

舞台監督=柴崎大

舞台監督助手=田村要

舞台・照明・音響=愛知県舞台運営事業協同組合

企画プロデュース=唐津絵理 [愛知県文化情報センター]

山口佳子 [NPO alfalfa]

初演=2009年12月 愛知県芸術劇場小ホール

主催=愛知芸術文化センター企画事業実行委員会

製作=愛知芸術文化センター

企画制作=愛知県文化情報センター、NPO alfalfa

協力=日亜化学工業株式会社、筑波大学大学院

後援=宇宙航空研究開発機構 [JAXA]

宇宙線検知システム設計・制作=倉田真一

協賛=チャコット株式会社 Chacott



平成23年度文化庁

優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業

Motoko Hirayama Solo Performance

[After the lunar eclipse] recreation

July 22 [Fri] 2011 19:00

July 23 [Sat] 2011 14:00 / 18:00

Aichi Prefectural Arts Theater, Mini Theater

Choreographer, Director, Dancer= Motoko Hirayama

Light Art= Takuro Osaka

Costume= Suzuki Takayuki

Music= Toshiyuki Ochiai

Make up= Mieko Ueda [SHISEIDO]

Lighting Director= Noriyuki Mori [balance,inc.DESIGN]

Stage Manager= Dai Shibazaki

Producer= Eri Karatsu [Aichi Prefectural Arts Promotion Service]

Kako Yamaguchi [NPO alfalfa]

Produced by Aichi Arts Center Planning and Program Committee

Planning and produced by Aichi Prefectural Arts Promotions Service

Supporting by Agency For Cultural Affairs

Special thanks to=株式会社 ユン美工、阿南工業高等専門学校 釜野研究室、Beyond[Space + Art and Design]、小路雅子、中尾文哉、名古屋学芸大学

撮影=池上直哉



平山素子ソロプロジェクト

After the lunar eclipse 月食のあとリ・クリエーション

2011年 7月22日 [金] 19:00 / 23日 [土] 14:00 / 18:00

愛知県芸術劇場小ホール [愛知芸術文化センター地下1階]

ツアー情報

◎東京公演

5月27日 [金] 19:30 / 28日 [土] 16:00 / 29日 [日] 16:00

世田谷パブリックシアター

主催=平山素子、NPO alfalfa

提携=[公財] せたがや文化財団、世田谷パブリックシアター

後援=世田谷区

◎兵庫公演

6月18日 [土] 14:00 兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール

主催 =兵庫県、兵庫県立芸術文化センター



これまで多くの舞踊作品を創造する現場に身を置いてきましたが、これらの経験は全て私を形作る骨・肉・血となって巡り、現在に至ります。それは、同時に不完全な自身を突きつけられ、常に悩むことの連続でした。神ではない「人間」である私ができること、身体に内在する感情という微動を一人の芸術家として提案し続けること、これだけなのかもしれません。

『After the lunar eclipse/月食のあと』は私が「舞踊」そのものを体現する真のダンサーになりたいと強く願うきっかけとなった作品です。降り注ぐ宇宙線を浴びて揺らぎながら変容する身体、そして新たな磁場として無限の広がりを見せる劇場=宇宙、など私の様々な舞踊観が反映されている作品です。

日本が最大の危機に立たされている今、被災された皆様のことを考えると、何ができるのかと悩まずにはいられません。しかし、私はこれまで人の心を癒し、勇気づけ、そして幻想に導く舞踊の深い芸術性を信じてきました。これを絶やすことはできないと責務にも似た勇気が今の私を支えています。ソロは独特の集中力をアーティストに強い、己を映し出す鑑として非常に過酷で孤独なものです。心を込めて、身を投げ出し、人間の生きる力、そして希望の光を全身で表現できたらと思っています。

新たな舞踊作品を創造するチャレンジができることを幸せに感じ、関係者の皆様に深く感謝いたします。

平山素子 www.motokohirayama.com

愛知県出身。静謐さと昂揚を自在に奏でるダンサーとして観客の熱い支持を集め、近年は振付家としての評価も高い。06年ポリシヨイ劇場バレエ団にて「Revelation」をS・ザハロフに提供、07年朝日舞台芸術賞、08年芸術選奨文部科学大臣新人賞、江口隆哉賞を受賞。愛知芸術文化センター製作の07年ダンスオペラ4「ハムレット〜幻鏡のオフィーリア〜」やあいちトリエンナーレ2010における料亭河文でのパフォーマンスなど、地元の多数の企画に振付・出演。美術家や音楽家との共演によりアートフェスティバルで作品を発表すると共に、無重力空間でのダンス実験にも参加するなど、洗練されつつ開拓心を失わないアーティストとして日本のダンスシーンをリードする存在である。筑波大学人間総合科学研究科准教授。



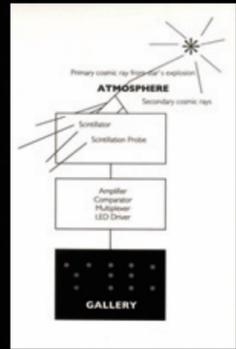
本公演で舞台上に配されている「宇宙線シリーズ」のインスタレーションは、阪神大震災の被災地を見た事と、1965年からの長野県松代群発地震に於ける空の発光現象に強く触発され、制作をスタートした作品です。それは地下に蓄えられた巨大なエネルギーが大地を揺るがすと同時に、オーロラと同じメカニズムで空を発光させていると思われたからです。1999年には東海村の臨界事故で2名の作業員が亡くなりましたが、これも目に見えない放射線の高いエネルギーによるものです。この頃、宇宙線を視覚化する名古屋大学の“Spark Chamber”を東京のSONYビルで見た事も本作品を作る大きなきっかけになっています。宇宙線は世界の始まりであるビッグバンや超新星の爆発、太陽フレアから飛来していると言われ、世界の成り立ちを証明する宇宙からの信号です。作品は第4回名古屋国際ビエンナーレ・ARTEC'95でも発表し、2005年には地中の花崗岩から放射されるガンマ線を視覚化する作品へと展開しました。

今回は、放射線の光のシャワーの中で、人体が浮遊するように舞う事を通して、人間の有様の何かを感じていただければと思います。

逢坂卓郎 www.takuro-osaka.com

日本のライトアートの草分け的存在。宇宙線の信号がLEDの光に変換される“宇宙線シリーズ”、皆既月食後の月の光を巨大な鏡で捕らえる“ルナ-プロジェクト”は宇宙をテーマとした代表的な作品。弾道飛行による微小重力環境の中で3回遊泳実験を行なう。2008年、09年に国際宇宙ステーション内で芸術実験を実施。ロレアル大賞98、NDF'98ディスプレイ産業大賞、'06北米照明学会賞地域賞など、受賞歴多数。筑波大学人間総合科学研究科教授。

青く点滅する舞台上のLEDのスクリーンは人工的にプログラムされているものではありません。宇宙の彼方から飛来する宇宙線（宇宙放射線）の様々なエネルギー値をシンチレーターで検知し、リアルタイムで光に変換しているのです。私たちの身体は1秒間に200個以上の宇宙線が貫通しているといわれており、これは第二次宇宙線と呼ばれるものです。宇宙線の起源は宇宙の創世時である“Big Bang”と、星の誕生と消滅の際に起こる大爆発（Super Nova）時であるという説があります。壮大な時間と空間を超えて飛来した光を通して、私たちが時の断片を見ていることは確かです。舞台空間に瞬く、276個の揺らぎのある光が点灯するタイミングは乱数で、そこには決められたリズムはありません。



スズキタカユキ www.suzukitakayuki.com

1975年愛知県出身。東京造形大学在学中に友人と開いた展示会をきっかけに映画、ダンス、ミュージシャンなどの衣裳を手掛けるようになる。2002-03A/Wからsuzuki takayukiとして自身ブランドを立ち上げ、07年より東京コレクションに参加。08年からオーガニックコットンに特化した「ikkuna/suzuki takayuki」や企画・コラボレーションライン「toha」をスタート。

©愛知県文化情報センター スケジュール [予定]

キッズ・プロジェクト

ー「バックステージツアー」

8月3日 [水] 愛知県芸術劇場大ホール&コンサートホール

ー「TACT / MEET」愛知県芸術文化センターフォーラム I & II

『ひつじ』8月9日 [火] 15:00 / 10日 [水] 13:00 / 11日 [木] 11:00

『飛行隊』8月9日 [火] 17:00 / 10日 [水] 11:00

オンド・マルトノ・コンサートとコラボレーション・ダンス公演

11月29日 [火] 19:00 (ダンス:鈴木ユキオほか)

パフォーミング・アーツ・ガーデン 2012年1月7日 [土]

(ゲスト: C/Ompany 大植真太郎 柳本雅寛 平原慎太郎)

ジョセフ・ナジ「カラス」2月21日 [火] 19:00 / 22日 [水] 19:00

 AICHI ARTS CENTER

